

研究発表もうしこみフォーム

氏名：チンゲル（青格力）

氏名のローマ字表記：Tsengel

所属：中国社会科学院古代史研究所研究員（教授）

専門分野：モンゴル史

発表のタイトル：大興安嶺における古代岩壁銘文調査研究の進展

発表要旨（600字～800字程度）：

2020年「大興安嶺地区に遺存する古代多文字種岩壁題記プロジェクト」実施以来、筆者は研究チームを率いて大興安嶺地区において100カ所以上の現地踏査を行い、80カ所以上で約600点の岩壁題記銘文を発見した。その多くが初めて発見されたものである。これらの岩壁題記に使用されている文字種は漢字、契丹文字（大小字）、女真文字、ウイグル式モンゴル文字、パспа文字、シリア文字、ペルシャ文字、チベット文字、梵字など多岐にわたり、多くの場合1つの岩面に複数文字種の銘文が混在している。題記の分布は主に大興安嶺中部から南部にかけ、ハルハ川、トアル川、ダイリウ川、シラムレン川、ケルレン川などの流域に及ぶ。題記の成立時期は遼・金・元時代に及び、各時代・地域ごとに特色ある様相を呈し、当地の歴史地理や自然環境と密接に関連している。これらの題記は当時の政治・経済・文化・宗教などを反映し、題材や文字種の多様性、分布範囲の広さにおいて極めて稀な存在である。北方遊牧民族の歴史研究、言語文字研究、ユーラシア草原文化交流研究にとって貴重な歴史文化資料であるに違いない。今年2025年に第1段階調査を終了し、2026年から第2段階調査を開始する予定である。第1段階では内モンゴル自治区シンガン盟、通遼市、赤峰市、フルンボイル市、フフホト市などを調査した。本発表では新発見の岩壁銘文について、地域分布や基本形態および成果を総合的に提示するとともに、その基本的特徴について考察を加えるものである。